



2016年4月26日

各 位

会 社 名 株式会社 東芝
東京都港区芝浦1-1-1
代表者名 代表執行役社長 室町 正志
(コード番号: 6502 東、名)
問合せ先 広報・IR部長 長谷川 直人
Tel 03-3457-2100

当社原子力事業に係るのれんの減損及びWECグループ株式の評価損について

当社は、2006年度にウェスチングハウス社グループ(以下「WECグループ」)を買収し、それに伴いのれんを当社連結貸借対照表に計上してきましたが、下記の通り2015年度(2016年3月期)(以下「当期」)の決算において当社原子力事業に係る当該のれんの一部の減損及び当社個別財務諸表(単独決算)上のWECグループ株式の評価損を行う見込みとなりましたので、お知らせいたします。

なお、本件減損処理の連結財務諸表に与える影響につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表しております当期連結業績予想に織り込み済みであり、当社個別財務諸表(単独決算)上のWECグループ株式の評価損は、当社連結財務諸表に影響を与えません。

記

1. 当社連結財務諸表における原子力事業に係るのれんの減損について

当社は、2006年度にWECグループの株式を取得し、その際、米国会計基準に基づき株式取得価格とWECグループ事業資産の公正価値(純資産)との差額約29億3千万ドル(当時のレートで3,500億円相当)を、当社連結財務諸表上、無形固定資産であるのれんとして計上いたしました。

当社は、当社連結財務諸表に計上されたのれんについて、毎年度、米国会計基準に基づき原子力事業(WECグループ事業を含む。以下同じ。)の公正価値を算定し、のれんの減損テストを実施してまいりました。

2016年2月4日の「2015年度業績予想の修正および「新生東芝アクションプラン」

の進捗について」及び2016年3月18日の「2016年度事業計画説明会」でも公表いたしましたように、原子力事業の公正価値は帳簿価額を上回っていたため、当年度の第3四半期における減損テスト（STEP1）では、減損の兆候は認められないと判断いたしました。

しかしながら、当社の財務状況の見通しが著しく悪化したことにより、当社の格付けが低下する等の資金調達環境が変化したため、2016年2月29日を基準日として改めて減損テスト（STEP1）を実施いたしました。

改めて実施した減損テスト（STEP1）においては、原子力事業の事業性に変化はなく、その将来計画に重要な変更はなかったものの、資金調達コストの水準の上昇等により割引率を見直しました。その結果、原子力事業の公正価値が帳簿価額を下回り、減損の兆候を認識するに至り、減損テスト（STEP2）を実施いたしました。

減損テスト（STEP2）において、のれんを除く資産及び負債の公正価値の再評価を行うことにより、WECグループ買収後の事業の進捗・成長によって技術資産中心に無形固定資産の価値が増大した結果、相対的にのれんが減少することとなりました。減損額については、現段階で約2,600億円を見込んでおり、同額を営業損失として当期の当社連結財務諸表に計上する予定です。

2. 当社個別財務諸表（単独決算）におけるWECグループ株式の評価損について

日本会計基準を適用する当社個別財務諸表（単独決算）において、WECグループ株式の実質価額が投資簿価を下回り、さらに現時点では当面回復が見込めないと当年度の第4四半期に判断したことにより、当該株式の評価損を認識することといたしました。評価損失額については、現段階で約2,200億円を見込んでおり、同額を営業外損失として当期の当社個別財務諸表（単独決算）に計上する予定です。なお、当該株式評価損は当社連結財務諸表に影響を与えません。

上記の金額は、決算作業中のため、最終的に確定したものではありません。最終的な金額については、当期の決算発表において公表いたします。また、本日公表の「2015年度業績予想の修正について」6頁から8頁に詳細を記載しておりますので、合わせてご確認ください。

3. 今後の見通し

本件の当社業績に与える影響を含めた当期決算の業績予想につきましては、本日付公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」のとおりです。

以 上